令和7年度大阪大学大学院人間科学研究科
博士前期課程入学試験＜社会人＞（冬期）出題の意図

試験 科目	専門科目 (教育学系)	講座		研究 分野	
----------	----------------	----	--	----------	--

(2 枚中の 1 枚目)

(教育工学)

問題 I

問題 I はいわゆる CBT を中心に、現代の学校教育の学力の測定や評価に関連する問題について論じるものである。この話題の周辺の知識を確認するとともに、その可能性と課題を考えさせることを通して、人間や社会、教育問題に関する教養的知識、その知識に基づき思考する態度、批判的思考力および自身の意見を論理的に記述する能力を測る。

問題 II

問題 II は、教育工学研究に必要となる知識として、教育改革に関する教養的知識および、教育の方法、教育課程、教育評価、教育心理学、そして、研究方法論、統計学に関する学術的知識の理解度を確認するものである。

(臨床心理学)

問題 I

- 1) 心理療法の研究方法についての理解を問う。
- 2) EAP の設置場所によって、スムーズに行われる支援のあり方や、相談者に対する留意点について包括的に理解できているかどうかを問う。
- 3) カウンセリングの基礎的な知識を問う。

問題 II

- 1) 代表的な心理療法についての基礎的な理解を問う。
- 2) 代表的な心理検査法についての基礎的な理解を問う。
- 3) 臨床心理学における重要な概念の理解について問う。
- 4) 検査に関する知識を問う。

(教育制度学)

問題 I

20 世紀における比較教育学を代表する古典書の理解と知識を問うことを目的としている。

令和7年度大阪大学大学院人間科学研究科
博士前期課程入学試験<社会人> (冬期) 出題の意図

試験 科目	専門科目 (教育学系)	講座		研究 分野	
----------	----------------	----	--	----------	--

(2 枚中の 2 枚目)

(生涯教育学)

問題 I

学校と地域の連携のための制度として「コミュニティスクール」が導入されている。コミュニティスクールは、教育委員会が、学校や地域の実情に応じて学校運営協議会を置く学校を指定したものであり、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 47 条の 5」に基づいている。この問いでは、制度としての「コミュニティスクール」を正確に理解し、利点と欠点を論理的に整理、回答できるかを評価するために出題した。

問題 II

生涯教育に関わる用語について、適切に説明できるかどうかを問う。

(教育文化学)

問題 I

近年、教育格差が社会問題として取り上げられているが、教育格差を是正するためには、進学率を上げればよいという単純な話ではない。進学率が上昇すると学歴はインフレを起し、実質的価値が低下する。教育格差の問題は、教育システムの内部にとどまらず、労働市場との関係も視野に入れなければならないということでもある。教育をマクロな視点から捉えることができるかを確認するために出題した。

問題 II

教育学・教育社会学の重要概念や方法論に関わる基礎的知識の理解度をみるために出題した。